

ピアノ演奏における多面化と可能性を追求して

——リサイタル開催及び曲目に関する一考察——

“Towards Multiplicity of Piano Performance”

徳末悦子

去る七月三日、神戸文化ホール（中ホール）において、リサイタルを開催した。“メルヘンへの旅立ち”のサブタイトルを持ち、視覚と聴覚の接点を求めての新企画のものである。ピアノ演奏と共に、ナレーション、スライドにより物語が展開されるのであるが、楽しさの中にも各々の作品の持つ芸術的な香り、格調の高さを保持する様、留意した。このコンサートの上演に当り、従来と異なる新体験、ピアノ演奏プラス演出などを中心に述べてみたいと思う。

〔I〕 動 機

(1) 当日のプログラムの中でも触れたが、広いステージの中央に置かれた一台のピアノ。静寂と張りつめた雰囲気と全身で受けとめつつ、そのピアノに向かって歩みを進める時の緊張と孤独感。ピアノの演奏会において誰しもが多少なりとも共通の体験を持っていることであろう。立場を替え、聴衆の一人としてコンサートに出かける時も同じことである。奏者が知人であれば、その親密度に比例して、恰も自分が出演する如く、期待と緊張、そして一抹の不安に落着かぬ思いがする。

演奏内容に関しても、無条件に深い感銘と大きな感激に包まれ帰途につくものも屢々みられるが、ともすれば、その演奏の良否両面において、細部に捉われすぎること気付く。私は、かねてより本当の意味での音楽会、文字通り“音を楽しむ会”、(音が苦会に非ず)奏者・聴衆共にリラックスして会場が一つに溶け合う様な演奏会、“音がはずれた”“暗譜が危なかった”などよりも“ああ、楽しかった!”と、心から愉しめるものがあったものではなか(学究的であり、研究の成果を問う高度なものの必要性は当然乍ら)、と考え続けていた。

(2) たまたま、フランスに留学中の尾上享子さん(相愛大研究生修了)から、おみやげに、とプレゼントされたのが可愛い数々の絵入りで、アンドレ・エレ André Hellé 作、クロード・ドビュッシー Claude Debussy 作曲の“おもちゃ箱 La boîte à Joujoux ——子供のためのバレエ Ballet pour enfants”——の楽譜であった。それにヒントを得て、オペラ程の規模の大きさ、豪華さはなくとも視覚的にもエンジョイ出来る要素をプラスすれば一層、心優しい

ピアノ演奏における多面化と可能性を追求して

ものになる筈。バレエの場面をスライドで表現し、ナレーションを入れて理解し易く、心の通うものにしてみれば……と思いついたのである。

(3) 別の要因として、最近、音楽殊にピアノのレヴェルの高さは周知の通りであり、国際的な檜舞台での邦人の活躍が盛んな中で、華やかなテクニックに支えられたピアノ演奏は若い方達にまかせ、自分なりに今日まで積みあげて来た音楽の年輪を、一味違ったユニークな形で表出してみたい、との事由もあった。

プログラムは、前述のドビュッシー作曲の“おもちゃ箱”の他に、ジャン・ド・ブリュノフ Jean de Brunhoff 作、フランシス・プーランク Francis Poulenc 作曲の“小象ババールの物語 L'histoire de BABAR, le petit éléphant——朗読とピアノのための Pour récitant et piano”——と決定し準備を進めることにした。

〔Ⅱ〕 経 過

(1) 邦訳に関して

ドビュッシー作曲“子供のおもちゃ箱”の方は尾上さんが、プーランク作曲“小象ババールの物語”は英訳も付いていたので、自分で一応訳し、それを本大学の稲垣孝子教授にフランス語と読み合せ確認して頂きつつ日本語訳を作成、更に、知人の横山俊弥御夫妻に手を加えて頂いた。“おもちゃ箱”は、バレエ曲で、情景描写から物語風にと、書き改めねばならぬため、かなり時間をかけて御苦心頂き、大変申し訳なく思っている。

(2) ナレーター・フルート奏者の依頼・練習に関して

このコンサートは、神戸市及び市立文化ホールの主催ということから、やはり同市在住、かつ、多彩なセンスの所有者の荘田作教授に朗読を、そして、フルートは若林正史教授推薦の竹下洋子さん（相愛大研究生修了）に依頼した。

ドビュッシーの“おもちゃ箱”は元来ピアノ・ソロの曲であったのを、作曲者自身、オーケストレーションに着手しかけた後、アンドレ・カプレ André Caplet により完成されたが、私の楽譜はピアノに管のオブリガートが付記されたものである。私は、よりふさわしいと判断出来るメロディを指定箇所に加え、フルートの演奏とした。

さて、練習を開始してみると、元来、朗読とピアノのための曲である“ババール”は殆ど問題はなかったが、“おもちゃ箱”は、音楽の流れの中に重ねてナレーションが入る状態で、大いに検討・工夫を要した。例えば、ピアノ演奏が〔f〕,〔ff〕の箇所では、如何に大声をはりあげても双方共、ガンガン響くだけで、一向効果はあがらぬので、朗読箇所を少しずらして音の比較的少ない所、又は〔P〕の箇所へ移行させる。あるいは、演奏の方を〔P〕、で始め cresc. でふくらませ、もり上げて行く、等々細部にわたり話し合い乍ら、推敲を重ねた。お二方には、何回も熱心に練習を共にして頂き、言葉に尽くせぬ御協力を頂戴して、誠に感謝に堪えない。

ピアノ演奏における多面化と可能性を追求して

(3) スライドに関して

“おもちゃ箱”は前記の通り絵入り楽譜で、それを使用出来るが、“ババール”の方は絵が必要であり、当初は画いてもらう手配をしていたが、絵本があることに気づき、大阪・神戸を探し廻って、ようやく入手。両曲のこれらの絵をスライド用に作成依頼した。

一方、当ホールは、一日一団体の使用と決められて居り、午前中など空いている折も使用不可能との事、従ってスライドのテストは、当日午後のリハーサル時のみ、とマネージャーよりいわれて、大変気がかりであった。今回のコンサートは、ピアノが主体であるが、朗読・スライドと三位一体になってこそ、その成果があがるのであるから、各曲二十三枚～二十五枚の絵をバックスクリーンに投影するタイミングは極めて重要である。又、楽譜の全く読めない人の操作で、しかも当日が初めてというのでは余りにも心許ないので、学生にアルバイトとして応援してもらうこととし、楽譜・演奏テープ・絵などを手渡して、前もって馴れてもらい、当日は電気技師について遺漏のない様、配慮した。

(4) その他

準備が整い、当日が近づくにつれて新機軸のコンサートとして、各新聞紙上にかなり取りあげられ、『音楽現代』よりの電話取材やサン・テレビの練習風景のビデオ取り及び放映など、お蔭様で予想外の反響を呼んだ。入場券も当初の懸念に反し、十日程前には各プレイガイド他、すべての券を引あげて、私自身も自分のリサイタルであり乍ら自由にならず、嬉しい悲鳴をあげる、と申したい所乍ら、思いもかけぬ申し訳ない事態も起り、複雑な思いであった。ホール側が消防法の関係から超過定員を、かなり嚴重に規制して居り、マネージャーも実質来場者数に神経質にならざるを得なかったのである。

〔Ⅲ〕 リサイタルを開催して

前項で触れた様に、スライドテストの必要から、当日午後には全曲の演奏を余儀なくされ、他方、昼が好都合の方々、キャパシティの問題等から、結局、リハーサル時にも一部の来聴者を迎えて、実質上、昼夜二回公演の様な形となった。

午後二時、会場に到着すると、直ちに上演に関する打合せがあり、引き続いて演奏に入ったので、後半は、大分疲労が募り、夜の公演を懸念したが、休息をとる中、次第に回復、危惧したよりは、ましなコンディションでとにかく無事に会を終えることが出来た。

今回の公演は、室内楽的な扱いとして、楽譜も堂々(?)と立て、リラックスする様、心がけつつ演奏を進めて、来聴者共々に、念願通りの和やかなムードのコンサートが持てたと思っている。しかし乍ら、年齢制限をせず、そのために会場が若干ざわついたこと、壁面がブルーで、画面が暗かったこと、など申し訳なく、又、心残りでもある。

会の終了後、各方面から御高評を頂戴した。専門の方々からは、音楽誌・新聞紙上での論評

ピアノ演奏における多面化と可能性を追求して

を含め、一応評価して頂いた様であり、一般聴衆の方々より、“ナレーションや絵があって、音楽もよく理解出来た” “日頃は、むずかしすぎて退屈する時もあるが、今回は楽しく、時間の経つのを忘れた。” 等々のお言葉を頂いた。全般にスライドに関するものが多く、“少し暗くて惜しかった。” “今少し絵が多い方がよい。”（これは“おもちゃ箱”において肝心のシーンがない場合があって、追加し、画いてもらうことも考えたが、手が違うと、どうしても風合が異なり、かえて全体をスポイルすることをおそれて、そのままにした。）その他、“絵に動き……映画の様に……があれば、もっと面白いのではないか？” “朗読と絵に注意を向けていると、音楽を聴く方がお留守になって、聞く側にもテクニック（？）が要る。” “子供たちに音楽、とりわけフランス音楽への興味を誘う一つのよい契機となった。” etc. ここにその一部を披露し、これらの貴重な御高評・御所感を参考に、今後更に、種々研究、改革を試みたいと思っている。

〔IV〕 演奏曲目に関する一考察

上演曲目中、紙面の関係で今回は、プーランク作曲“小象ババールの物語”のみ、とりあげることとする。

(1) 概説

フランシス・プーランク（1899～1963）は、幼少の頃よりピアノ教育を長年受けたが、これは彼の音楽家生活の基盤をなすものであり、声楽曲と共に、ピアノ作品に比較的優れたものが多くみられることから察知出来る。又、彼は動物に興味を示し、それらにテーマを求めた作品は、次の様なものがあげられる。

〔声楽曲〕

(a) 動物詩集 *Le bestiaire, ou Le cortège d'Orphée* 1919

- 1) らくだ *Le dromadaire*
- 2) チベットの山羊 *La chèvre du Thibet*

他、全六曲

(b) 2つのメロディ *2 Mélodies* 1956より

- 1) 二十日ねずみ *La souris*

〔無伴奏合唱曲〕

小さな声 *Petites voix* 1936より

- 2) いなくなった犬 *Le chien perdu*
- 5) はりねずみ *Le hérisson*

〔バレエ曲〕

(a) 牝鹿 *Les biches* 1923

(b) 典型的動物たち Les animaux modèles 1940~41

そして、朗読とピアノのための“小象ババールの物語”もその一つで、1940年頃より、その構想はあった様だが、親戚の子供に催促されて1945年完成をみた。

象の“ババール”を主人公としたジャン・ド・ブリュノフの絵本は、広く子供たちに親しまれ、(1)“象のババール”に始まり、(2)“ババールの新婚旅行”(3)“王様ババール”……と全十巻からなるが、プーランクは、最初の誕生から王様になるまでの成長過程、心理描写、人間社会との接触などを、その絵から巧みに音の綾に織りあげている。タイトルの示す様に、曲は朗読とピアノによって進展され、二十の小曲から構成されている。

彼の作風は、本質的には古典主義をふまえ、簡潔・明快、それにフランスのエスプリが随所にちりばめられているが、更にこの曲には次項の様な特徴と多用が見出される。

(1) 無調性部分と、調性の明確な部分との対比及び融合。後者は屢々、ロマンティックな表現に多く用いられ、且、かなり遠隔調での配置、作法がみられるが、このことにより、一層、色彩的で新鮮な印象を与えている。

- (2) 4度及び半音階進行のメロディ。
- (3) 同型モチーフの反復。
- (4) 32分音符を伴う付点リズム。
- (5) かなり長いペダル（踏みっ放し）の指示。など。

〔II〕 演奏解釈

個々のストーリーとピアノ曲との関連性、特徴・演奏上の留意点などに関して述べてみたい。(邦訳は大意を記述) 四角のかっこ内の数字は小節番号。

楽譜・解説 1)

- 1) Dans la grande forêt un petit éléphant est né. Il s'appelle Babar. Sa maman l'aime beaucoup. Pour l'endormir, elle le berce avec sa trompe, en chantant tout doucement.

ババール誕生。母親象は非常に彼を可愛がり、長い鼻で揺りかごを揺すり、ねかしつける。

Très modéré ♩ = 48

Mettez beaucoup de pédale

M.G. *sempre pp*

5

sua bassa

ピアノ演奏における多面化と可能性を追求して

1) ゆったりしたテンポ。ペダルの多用が指示されているから、全体的に legato で、やわらかく包みこむ様な感じで、[5]より3段楽譜となり、中声部音符に〔-〕が付されているので、上声メロディとのバランスを考え乍ら、少し響きを浮き立たせる。[10]より Ges dur でメロディが明確になるので弦の感じで歌わせ、最後は〔ppp〕に向ってテンポを落し乍ら自然に消えて行く様におさめる。

左手の保続音ペダル上にシンコペーションを配しているが最終曲とも関連を持ち、共通の静けさの表出と考えられる。

- 2) Babar a grandi. Il joue maintenant avec les autres enfants éléphants. C'est un des plus gentils. Il s'amuse à creuser le sable avec un coquillage. ババルはどんどん成長し、友達の象たちと遊んでいるが、彼は仲間の中で一番すばらしい子供だった。

Presto $\text{♩} = 160$

The image shows a musical score for a piano piece. It is in 4/4 time and marked 'Presto' with a tempo of 160 quarter notes per minute. The dynamic is 'mf Très rythmique'. The instruction 'sans pédale' is written below the first few measures. The score consists of two staves, treble and bass clef. The bass clef part has a steady eighth-note accompaniment. The treble clef part has a more complex melody with many beamed eighth notes. There are some markings like 'Red.' and a star symbol at the end of the piece.

2) 速く、躍動的な曲。案外、弾き難く、左手拍頭に軽く〔>〕をつけリズム感を出しつつ粒を揃える。[10]より美しいメロディが流れ、のびのびと楽しげに遊ぶ風景が描写されているから、音色を変え、フレーズは息長く歌わせる。終結部は〔ff〕で一気に行き、急速に dim. して〔P〕へ。

- 3) Babar se promène très heureux sur le dos de sa maman. ある日、お母さん象におんぶして楽しいお散歩をしていた。

Très calme $\text{♩} = 68$

The image shows a musical score for a piano piece. It is in 4/4 time and marked 'Très calme' with a tempo of 68 quarter notes per minute. The dynamic is 'p'. The score consists of two staves, treble and bass clef. The bass clef part has a steady eighth-note accompaniment. The treble clef part has a more complex melody with many beamed eighth notes. There are some markings like '>' above the first few notes.

3) 冒頭部分は、楽しいお散歩にしては、その後の不幸な出来事を予想するかの様に、やや重苦しく暗い感じで始まるが、このモチーフは後出の曲の随所に顔を出す。[7]より4小節ずつ二度繰り返される F dur のオクターヴの和音進行で明るさをとり戻し、突然の〔ff〕は絶叫の不協和音。

3') この短い急速なパッセージは、銃声、突然のアクセント。その後、Molto agitato か

3')

Tout à coup un vilain chasseur, caché

derrière un buisson, tire sur eux.

ところが、突然繁みの中から悪い狩人がズドン!
と鉄砲をうち、母さん象は死ぬ。

Le chasseur a tué la maman. Les singes se cachent, les oiseaux s'envolent. Le chasseur court pour attraper le pauvre Babar. Babar se sauve parce qu'il a peur du chasseur. 猿や小鳥たちが逃げ隠れ、ババールも恐怖から懸命に逃げて助かる。

らは必死で逃げまどう動物たち、そして続く重々しいオクターヴ和音の下行進行は、ぐんぐんテンポを落とし乍ら最後の [pp] へもって行くが、倒れた母親象が喘ぎつつ息を引きたるまでの描写と見られる。冒頭部分の右手メロディは、変奏されて⑧よりの左手に現れている。前半・後半に表現の違い（前半に比し、後半は激しい感じ）が必要であろう。

4) Au bout de quelques jours, bien fatigué, il arrive près d'une ville. . . Il est très étonné parce que c'est la première fois qu'il voit tant de maisons — que de choses nouvelles! ces belles avenues! Ces autos et ces autobus!

Pourtant ce qui intéresse le plus Babar, ce sont deux messieurs qu'il rencontre dans la rue. Il pense: "Vraiment ils sont très biens habillés. Je voudrais bien avoir aussi un beau costume . . . Mais comment faire?"

Heureusement, une vieille dame très riche, qui aimait beaucoup les petits éléphants, comprend en le regardant qu'il a envie d'un bel habit. Comme elle aime faire plaisir, elle lui donne son porte-monnaie.

Babar lui dit: "Merci, Madame". 数日後、ババールはへとへとに疲れ、痛めた足をひきずり乍ら町にたどり着いた。沢山の家、美しい大通り、自動車、バス、目新しいものばかりだったがすてきな服を着た紳士に最も興味をひかれる。そこで幸運にも親切な老夫人に出会い、財布をもらう。

Très modéré ♩ = 66

4) As dur の親しみ易い、ゆるやかなメロディに特徴ある32分音符を伴う付点リズムのコンビネーションで曲は支配され、物珍しげにキョロキョロし乍ら歩みを運ぶ子象が彷彿とする。⑦よりの右手、オクターヴ半音階が、⑬中間部に [f] で形をかえて使用されて居り、一本指で演奏することが示されているが、実際には相当困難である。同等の効果に留意しつつ、

5) Maintenant Babar habite chez la vieille dame. Le matin, avec elle, il fait de la gymnastique, puis il prend son bain.

ババールは老夫人の家に住むことになる。二人は毎朝一緒に運動をし後でお風呂に入る。

Modéré ♩ = 100

演奏するならば、適宜変えることは許されるであろう。㉔よりは冒頭部分の再現でしめくられる。

5) 高音、単声のメロディで曲は始まり、㉑より低音でそのモチーフが模倣されるが、これは明らかに老夫人と子象“ババール”を対比させたもので、従って後者は、どっしり重々しい感じで奏する。㉑より対主題が現れ、無調のフーガの扱いであるが、次曲 6) にも、それが見出される。

- 6) Tous les jours il se promène en auto. C'est la vieille dame qui la lui a achetée. Elle lui donne tout ce qu'il veut. 毎日、ババールは買ってもらった車でドライブを楽しむ。老夫人は彼に何でも欲しい物を買いたえる。

au pas $\text{♩} = 92$

f Guilleret

M.G. (dessus) ff en dehors

The image shows a musical score for 'Guilleret'. It consists of three staves: a top staff with a treble clef and a middle/bottom staff with a bass clef. The top staff contains a melodic line with various ornaments and dynamics. The middle/bottom staff contains a bass line with a forte dynamic and the instruction 'ff en dehors'. The tempo is marked 'au pas' with a quarter note equal to 92 beats per minute.

6) “Guilleret” (快活に)とある通り、生き活きと生活をエンジョイしている描写、この曲は前曲 5) のモチーフで構成され、随所にそれが見られる。例えば左手のテーマは 5) の冒頭モチーフ。前半は 3 段楽譜で、中声部音符に (>) が付され、後出の 13) と共にクラクションを想起させる。

- 6') Pourtant Babar n'est pas tout à fait heureux, car il ne peut plus jouer dans la grande forêt avec ses petits cousins et ses amis les singes. しかし、ババールは森の幼なじみと遊べず、すっかり幸せとは言えない。

Le récitant

a tempo

Souvent, à la fenêtre, il rêve en pensant à son enfance
よく窓から外を眺め乍ら 幼い頃の夢を追った。

p

céder à peine

ped.

The image shows a musical score for 'Pourtant Babar n'est pas tout à fait heureux'. It features a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line has lyrics in French and Japanese. The piano accompaniment includes a piano dynamic and a pedaling instruction. The tempo is marked 'a tempo'.

この二小節は、次の Fis dur への接続、布石の役割を持つ同調のドミナント。朗読とピアノ

- 7) et pleure en se rappelant sa maman. そして大好きな母を思い出して泣いた。

a tempo

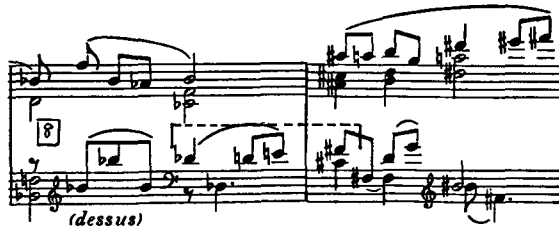
p

(dessus) *(dessus)*

The image shows a musical score for 'et pleure en se rappelant sa maman'. It consists of two staves with a treble clef and a bass clef. The music is in a minor key and features a piano dynamic. The tempo is marked 'a tempo'. There are two instances of '(dessus)' written below the staves.

ピアノ演奏における多面化と可能性を追求して

を少し重ね、次曲 7) と同様に、メランコリックな感情を充分こめて演奏。



7) ここは幼い日の思い出として1)の和声的変奏が用いられている。⑤より上声部を透明度高い美しい音でよく響かせ、⑧後半の対位的な左手内声、〔Des-D-E-Fis〕を見失わぬ様表情豊かに弾くこと。

- 8) Deux années ont passé. Un jour pendant sa promenade il voit venir à sa rencontre deux petits éléphants tout nus — “mais c’est Arthur et Céleste, mon petit cousin et ma cousine”, dit-il, stupéfait, à la vieille dame 二年の歳月を経て、ある日散歩の途中、はだかん坊の二匹の象、即ち、いとこの Babar embrasse Arthur et Céleste, puis il va leur acheter de beaux costumes. アルチュール と セレスト にばったり出会う。ババールは大喜びで可愛い洋服をさがしにショッピング。



8) 踊り出る様なモチーフで開始。如何にも象が巨体で浮かれ、欣喜雀躍する様が、リズムミカルな音楽によく表現されている。余りはねすぎずにどっしりと、最後は指示通り、一息に弾き切る。この曲にも和声的なクロマティックが用いられている。

- 9) Ensuite il les emmène chez le pâtissier manger de bons gâteaux. それから喫茶店に二人を案内して、ケーキをご馳走した。
Très gai et animé 10: 10 tempo $\text{♩} = 100$



9) 前曲にひき続き喜びが溢れているが、趣を異にし、軽快な足どりの曲。⑧よりは、ずっしり手ごたえある量感を示し、4小節ずつの声部の交替がみられる。循環モチーフの様に、5) の 4/4 での冒頭メロディが 3/8 となり使用されている。(例、⑧左手、⑧右手など。) そして、⑧より、〔P〕で再び軽やかな感じで、指示の様に、“sans ralentir” (遅くせず) に

終る。

- 10) Pendant ce temps, dans la forêt, les éléphants cherchent et appellent Arthur et Céleste, et leur mamans sont bien inquiètes. この間、森の中では大騒動。象たちはアルチュールとセレストをさがし廻り
Lent et pesant $\text{♩} = 63$ 母親象の不安が募る。

The musical score for measures 10-14 is in G major and 4/4 time. It begins with a tempo of 63 bpm. The first section (measures 10-12) is marked *p mystérieux* and features a slow, heavy texture. The second section (measures 13-14) is marked *f sans presser*. The bass line is marked *8va bassa*.

10) 曲首部分は、3) と同じモチーフであるが、減7度、減8度に不安な感じがこめられている。オクターヴの和音は決して急がず、手首を立ててキーの下までしっかり打鍵する。㊦及び㊧に [$\text{<}f$, $\text{<}ff$] と記されているが、心理的動揺の表現であろう。

- 11) Heureusement, en volant sur la ville, un vieux marabout les a vus. Vite il vient prévenir les éléphants. 運よく年よりの鳥が彼たちを見たというよいニュースを届けてくれた。
Presto giocoso

The musical score for measures 11-15 is in G major and 4/4 time. It features a fast, lively texture with a tempo of *Presto giocoso*. The first section (measures 11-13) is marked *8va* and the second (measures 14-15) is marked *Loco*.

11) “いたヨ、いたヨ”と、せき込んでの御注進場面であるから、*agitato* 気味に運ぶが、左手、無調性のオスティナートと、それに支えられた右手、半音階多用のメロディに感じがよく表されている。

- 11') Les mamans d'Arthur et de Céleste partent les chercher à la ville — elles sont bien contentes de les retrouver, mais elles les grondent tout de même parce qu'ils se sont sauvés.
母親たちは子供らを連れ戻すため町へ急ぎ、二人を見つけて大よろこび。
しかし “逃げ出すなんて悪い子”と彼らを叱る。

㊦の後、上記ナレーションが入るが、このあとの音楽は母親象たちのものとして、音量豊かに重たげに演奏。㊧ 10) の曲首のメロディが [ff] で現れ、終結部は指示の様に激しく [fff] で。恐らく叱責場面で、甲高い声で“駄目よ!”とヒステリックに叫んでいるのであろう。

- 12) Babar se décide à partir avec Arthur, Céleste et leur mamans et à revoir la grande forêt. Tout est prêt pour le départ. Babar embrasse sa vieille amie. Il lui promet de revenir — jamais il ne l'oubliera. ババールは皆と一緒に大きな森に帰る決心をした。旅装が整い、老夫人に別れのキスをし再会を約束する。
 La vieille dame reste seule; triste, elle pense: "Quand reverrai-je mon petit Babar?"
 老夫人は悲しみ乍ら一人残った。"いつ又、私のかわいいババールに会えるのかしら"

Lent et mélancolique $\text{♩} = 56$

pp
dans un halo de pédale

12) Fis dur リリシズム溢れる美しい曲。3)、10)のモチーフから派生したメロディと見ることが出来る。別れの感傷を十分心をこめて表現し、殊に16 3拍目より終りにかけての〔PPP〕—〔PPPP〕はキーのそばで、ひそやかな息づかいの様に、しかし、かすれず、透明な音で。

- 13) Ils sont partis . . . Les mamans n'ont pas de place dans l'auto—elles courent derrière et lèvent leurs trompes pour ne pas respirer la poussière. 出発。車が狭く、母親象たちは乗れないので、埃を吸わない様、鼻を高く持ちあげて、車のあとを追った。
 Presto $\text{♩} = 152$

f
sans pédale

Ped. *sans pédale*

13) Ped. の記号が記入されて居るが、冒頭2小節は“ナン”3小節目は1小節間ふみっ放しで次が又“ナン”の様に。最初の2小節と同形モチーフが7[8]に調性を変えて繰り返され、9—12までのオスティナートに入るが、1小節ずつ〔P〕→〔ff〕まで4小節で盛りあげる。12→13への移り目に〔?〕が記されているが、私はhalf Ped. で、前の音の“うなり”を少し残して13の〔P〕に入った。終結部における高音での4小節は、子象たちのペチャクチャおしゃべりが聞える様である。又、3[]右手はクラクションの擬音と考えられる。

- 14) Le même jour, hélas, le roi des éléphants, au cours d'une promenade, a mangé un mauvais champignon. 同日、悲しい出来ごとがあった。象の王様が散歩の途中、毒きのこを食べてしまったのである。 Gracieux et modéré, avec précautions $\text{♩} = 68$



14) 王様象の威厳と、散歩の足どりを考慮して演奏したい。[6]7における音の配合及び[9]の4度クロマティックのメロディは彼の作品によくみられる書法である。[5]より *dur* となり、どこか讚美歌を連想させ、宗教的な香りがする。[2]より、朗読と、左右2度のトレモロが交互

- 15) **Après l'enterrement les plus vieux des éléphants se sont réunis pour choisir un nouveau roi. Juste à ce moment ils entendent du bruit; il se retournent — qu'est ce qu'ils voient? Babar qui arrive dans son auto et tous les éléphants qui courent en criant: "Les voilà! Les voilà! Ils sont revenus! Bonjour Babar! Bonjour Arthur! Bonjour Céleste! Quels beaux costumes! Quelle belle auto!" Alors Cornélius, le plus vieux des éléphants dit, de sa voix tremblante:**
 "Mes bons amis, nous cherchons un roi, pourquoi ne pas choisir Babar? Il revient de la ville, il a beaucoup appris chez les hommes. Donnons lui la couronne."
 Tous les éléphants trouvent que Cornélius a très bien parlé. Impatients, ils attendent la réponse de Babar. "Je vous remercie tous, dit alors ce dernier, mais avant d'accepter, je dois vous dire que, pendant notre voyage en auto, Céleste et moi nous nous sommes fiancés. Si je suis votre roi, elle sera votre reine."
Vive la reine Céleste!! Vive le roi Babar!!! crient tous les éléphants sans hésiter.
 Et c'est ainsi que
 Babar devint

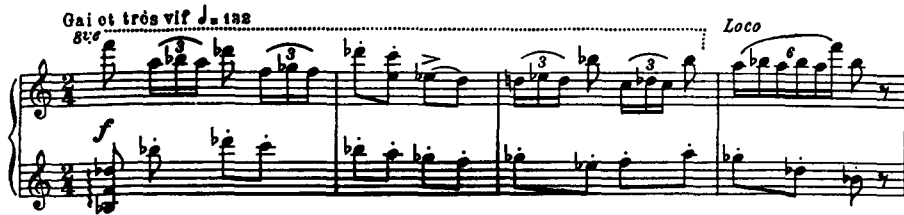
お葬式のと、年寄象たちは新しい王様を選ぶために一堂に会した。その最中賑々しくババールたちの一行が車で到着。一同は“すばらしい服、すてきな車”と叫び乍ら、帰って来たことを大喜びする。最長老のコルネリウスが人間社会で種々のものを見聞して来たババールを王様に如何?と提案、ババールは感謝し乍ら、旅行中、セレストと婚約したことを告げ、自分が王位に就くならセレストは王妃になる訳と説明する。“王妃セレスト万歳”“王様ババール万歳”象たちは大賛成。遂にババールは王様となった。



に1小節毎に繰返され、**29**より9度の連続半音下行は、暗く不気味な形容であり、王様象が苦しみつつ、次第に生命の灯が消え行く描写がなされている。最後の短い“H音”のユニゾンに死であろう。

15) 動機素材が同型で長く続き、その間ペダルも踏みっ放し。弦の振動を巧みに利用してオーケストラ的な響きの効果を出している。大勢の象たちの最高の歓喜、ざわめきがよく伝わって来るが、華々しく力一杯の演奏が要求される。

- 16) **Babar dit alors à Cornélius: "Tu as de bonnes idées, aussi je te nomme général et quand j'aurai la couronne, je te donnerai mon chapeau melon. Dans huit jours j'épouserai Céleste; nous aurons alors une grande fête pour notre mariage et notre couronnement."**
 Ensuite Babar demande aux oiseaux d'aller inviter tous les animaux à ses noces.
 ババールはコルネリウスに将軍になる様、そしてメロンの帽子をプレゼントすることを告げる。それから結婚式と戴冠式の盛大なパーティーを開くべく、森中の動物たちの招待を、鳥の仲間に頼んだ。



16) ババールの命令を受けて、鳥たちが甲高い囀りをふりまき乍ら、森中の動物たちにババールの大盛典をふれ廻る情景が、速度感のある高音3連音符や前打音を持つ連続下行和音進行などに表象されている。前打音は鋭く、全体にきびきびと歯切れよいタッチで、軽快・リズムカルに演奏する。

- 17) **(Le Récitant) Les invités commencent à arriver. お客が次々に到着する。**

17) 3)と同型モチーフによるリズムの変奏。威儀を正し、公式訪問の動物たちが参集する情景を、深いタッチで奏する重味ある2分音符で表象しているが、[9][16][20]と更にリズム変化及び音量の増加に従い、漸次、来客が増え、ざわめきの起る描写的筆致がみられる。[9]よりのリズム変化は5)と同じものである。終結部[20]よりの3小節は後出19)中の音価を変えたそれと又、同型であり(左手和音が少し変化)、〔∩〕のあと、〔fff〕不協和音は次のセレモニーへの導入を暗示している。尚、[11]—[19]にかけて“町へ花嫁衣装を買いに行ったらくは式に間に合う様、届けてくれた。”の朗読が入る。

18) (Le Récitant) Mariage de Babar. ババールの結婚式
Très lent et très pompeux $\text{♩} = 60$

18) この曲集中、初めてC durでの開始で、華麗な結婚式という山場に同調を用い、印象を深めようとの意図がうかがえる。[9]よりB durで戴冠式であるが、後半はより発展的に扱われ、最終部は、次のダンスパーティーへの前触れとしての旋律の断片が示されている。豊潤な音で荘麗に、堂々と風格ある演奏が望まれる。

19) Après le mariage et le couronnement, tout le monde danse de bon coeur
À toute allure $\text{♩} = 96$ 式の後、皆はダンスパーティーで楽しく踊った。

19) 大舞踏会。Des durで開始されるが、律動的で明るく、楽しい曲である。左手は常に弾んだリズムを正確に刻み、右手はカラリと軽いタッチで演奏。[18]に“鳥たちはオーケストラの伴奏で歌う”のナレーションが入るが、少し、新しく出直す感じでフレーズを明確にすること。[22]より次第に情熱的な高まりが表現され、[24][25]は前述の様に17)の[20]と同型、続くバスの“B”を起点とする速いパッセージは、cresc.をきかせて十分盛りあげ、最終音の響きを残し、長い休止。ここにパーティの終りを告げる朗読が入る。そして最後に前曲と再び同型の短い旋律断片が配されるが、音価も異なり、次の静寂の雰囲気誘導する様、キーのそばで余り指をあげず、静かに軽く触れる程度に。(以下に譜例19’)

19')

24 *ff*

très à l'aise *très long.*

ff *laisser tout vibrer*

11 8

La fête est finie.

p

20)

(Le Récitant) (Très poétique et doux): La nuit est venue,
夜のとばりが下りた。

Le chant très lié et très doux $\text{♩} = 68$

Modéré

pp Clair

Baigné de pédales
(on n'en mettra jamais assez)

20) 朗読への指示に“詩的にやさしく”とある。フレーズ及びそれに伴うペダルは、共に息長く。ゆるやかな音の運び、オクターヴメロディの微妙な変化に、大舞踏会後の夜のしじまが感じられる。19 Es dur は最初の 1) の揺りかごを示す同型メロディが戻るが、最初の無調性のものでなく、満足と幸せに満たされた、Es dur 主和音の中でのメロディである。[mf]でもあり、新しく少し盛りあげて、再び闇に溶け込む様、音量を減じて行く。

ピアノ演奏における多面化と可能性を追求して

この曲は、ピアノ演奏と重ねて、“王様ババールと王妃セレストの胸の中は幸せな夢に満たされていた。”“全世界は眠り、お客たちは大満足の中に帰途につく。そしてこの大舞踏会の思い出は、いついつまでも森の動物たちの心に深く残るであろう。”などの朗読が入り、最後は低音“Es”の単音で幕を閉じる。

以上、この曲に関する概要を述べてみたが、譜例は紙面の都合で、大部分を冒頭部分のみに留めた。演奏してみると、外見上より、手ごたえのある曲である。

最後に、リサイタル開催並びに今回の論集原稿執筆に当り、種々御高配賜わった方々に心より感謝申しあげる次第である。

使用楽譜

de Brunhoff, Jean (récit), Poulenc, Francis (musique), Histoire de Babar, le petit éléphant, pour récitant et piano, London: Chuster music 1949.
reprod. Bucks: Halstan & Co. Ltd., 1978

ピアノ演奏における多面化と可能性を追求して

